

# 力を合わせて

## 言葉も出ない

これが久慈か。  
津波襲来後、被害状況を記録するために沿岸地区を回ると、目を疑う光景が飛び込んできました。  
信じられないほどにさまざまな被害。小さいころ家族でドライブに行った海。友達と遊んだ海水浴場。自分も従事したイベントの会場。取材で行った漁港や観光施設……。どの場所に行っても、そのときの姿かたちはまったく残っていませんでした。  
ぼう然として、言葉も出ません。かわりに涙があふれました。

悲しすぎる現実。そこに住み、働き、被害にあった人たちは、どんなにつらく悲しいのだろう……。想像すると、話を聞くことさえもためらわれました。

今はまだ、話をしたくない、思い出したくない、考えたくない人もいます。わたしは被害にあった人に今の気持ちを聞くかわりに、今の状況を写真で残そうと決めました。惨状を切り取った写真が、たとえすべてではなくても、つくづく悲しい被災者の気持ちまでも伝えてくれると信じたからです。  
頭を下げ、一枚。また一枚。何枚も何枚も写真を撮りました。

## 今こそ

そんな中、驚くほどのスピードで漂流物やがれきなどの撤去作業は進められていきました。さみしい反面、復興に向けた勢いのようなものも感じられました。

被災した人からも、悲しみやつらさだけでなく、力強い声も掛けられました。  
「また頑張っけえな！」  
「どうにかなるさと思わなればなんねえし、どうにかしねえばなんねえ！」  
再開に向け、すでに漁船を発注している漁業者もいます。悲しみやつらい気持ちを抑え込み、被災した人たちは立ち

上がろうとしているのです。必死に活動する災害ボランティアの一人が言いました。  
「親友も被害を受けました。自分も何とかして被災者の助けになりたいんです」。

非常事態。大きな困難に直面した今こそ、全市民が気持ちを一つにし、力を合わせて、助け合っていくべきではないでしょうか。  
これまでも久慈市は津波などの災害を何度も乗り越えてきました。全市民の気持ちと力を合わせれば、今回の大災害も乗り越えられるはず。記録的な被害の次は復興の記録を。全市民一丸となって、この大災害を乗り越えていきましょう。

今こそ  
気持ちを一つにするとき

今こそ  
力を合わせるとき

これまでも、これからも  
災害はきつと乗り越えられる

この大災害。全市民で  
乗り越えていきましょう



ボランティア活動初日の3月19日。土煙とほこりが舞う中、被災者と共に必死になって作業を進める災害ボランティア